

ペチャクチャカナダ人

英語指導助手

アシュリー・ペトウルツ



チョコレートは本当に甘い？

Chocolates and All Things Sweet?

白状します。実は私ってロマンチストなんです。花は甘く、チョコレートは美味し。そもそも友達や恋人にプレゼントをもらって喜ばない人なんかいるかしら。

毎年バレンタインデーには父がカードをくれます。私にとってはこれが世界中の花より大切です。

でも実はバレンタインデーは悩ましい存在だと思っています。というのも、例年カナダでは、数え切れない男女が店に押しかけて、完璧な贈り物、完璧なバラの花束、完璧なチョコレートを探すのです。

私個人としては思いがけない贈り物のほうが好きなので、バレンタインデーはワクワクするとは言えません。だってプレゼントが貰えるってわかっているのですからね。

それにしても日本に引っ越してくるまでは、正直バレンタインデーはカナダのものだと思っていました。

だから、日本に来てバレンタインデーとホワイトデーのことを知った驚きったと言ったら、みなさんの想像に難くないところです。2カ月に2度もだなんて、信じられない！

自称ロマンチストの私は、本物の愛情は義務的に伝えるようなものではないと信じています。気持ちを伝えるのに特別な日まで待たないで、毎日が友達や家族に愛を伝える好機なのですから。

I admit; I consider myself a romantic. I think flowers are sweet, chocolates are delicious and who doesn't appreciate a gift from a friend or lover? Every year, I receive a Valentine's Day card from my father, which means more to me than all the flowers in the world. However, I have a confession; Valentine's Day troubles me. Every year in Canada, countless men and women flock to stores in search of the "perfect gift", the "perfect bunch of roses", or the "perfect box of chocolates". Personally, I like surprises and Valentine's Day is less-than exciting because you know that a present is coming your way! By moving to Japan, I honestly believed that Valentine's Day remained in Canada - I'm sure you can imagine my surprise when I learned about Valentine's Day and White Day! Two days in two months - unbelievable!

As a self-proclaimed romantic, I believe that true affection should not be expressed out of obligation. Every day is an opportunity to show your friends and family that you care, so why wait until a specified day to share your feelings?

この一家の話聞いたと

最近たいへん驚いた話を聞いてください。
ある50代のアメリカ人男性が語る一家のお話ですが、彼の身内の女性はみな55歳のときに何か「行動を起こす」というのです。
まず1人目。祖母は55歳のとき母を追ってイギリスへ移りました。
2人目。今度は姉がインドに移りました。これも55歳のときです。
その後、今度はイギリスにいた母は55歳のときオーストラリアへ移住。ここで、勉強していた家具修理の腕を活かして起業しました。
また、もう1人の姉も、海外移住こそしなかったものの子育てと退職後、夢だったジュエリーデザイナーの仕事を始めました。

英語学習指導員 宮地晶子の

エイゴのマナビカタ

第34回

バリアフリー

き、バリアフリーという言葉が浮かびました。彼女たちには2つのバリア（障壁）言葉と年齢がなかったのです。

まず言葉ですが、移住先はすべて英語圏なので問題がなかったのです。

それにしても55歳という年齢も移住や起業なんの壁にもならなかった。このことにとっても勇気づけられませんか。

もちろんお国柄もあります。アメリカでは、コミュニケーション・カレッジという学習施設を政府や自治体が提供しています。本当に再チャレンジが可能です。

また、「転がる石に苔は生えない」がいい意味で使われるような文化背景もあります。そういうえば青春という言葉は英語になりにくい言葉の一つです。

こういふ人たちにとってはいつだって青春になりうるのですね。「もう年だし」は禁句だなあ、と思いました。

年齢は考え方しだいとなる。と、もうひとつの「ことばの壁」を克服すれば世界中に活動のチャンスがひろがりやす